

(様式1)

大 学 名	上智大学	学 問 分 野	学際、複合、新領域
専 攻 等 名	外国語学研究科 地域研究専攻・国際関係論専攻・比較文化専攻		
拠点のプログラム名称	地域立脚型グローバル・スタディーズの構築		
拠点リーダー氏名	石澤良昭	所属部局・職	外国語学研究科・教授
プログラムの概要	市民社会の拡大など世界規模のグローバル化が、多様で局地的な現象を作り出す。本プログラムは、混沌としたグローバル現象を地域の視点から観察することによって新しい学問体系を作り上げ、かつ海外拠点との交流を通して研究者や学生を養成しようとする試みである。		
拠点形成の目的・必要性	現代世界の社会現象の多くが、既存の国民国家の枠を超え、また従来の学問領域の分類に収まりきらなくなってきたとの認識のもとに、本拠点では、こうしたグローバルな動きと地域社会・歴史との間の相関関係を研究対象とする地域立脚型グローバル・スタディーズの構築を目指す。これによって、従来の地域研究や国際関係論の枠組みを超えた学術的新地平を切り拓き、また日本・アジアから世界をリードする研究成果と創造的人材を送り出すとともに、西洋中心主義のもとで発達してきたグローバル・スタディーズにもインパクトを与えることを目指す。さらに、実績を踏まえたバイリンガル大学院教育を維持発展させ、上智大学アンコール研修所など、百校を超える海外提携大学等との学術交流を強化することによって、教員・大学院生・ポスドクの研究教育のための海外(協力)拠点の整備を行う。		
研究拠点形成実施計画	本拠点では、群「グローバル化の中の政治：重層的ガバナンス」・群「グローバル化の中の社会・経済：市民社会と開発・交易」・群「グローバル化の中の文化：宗教・文化の越境とアイデンティティの動的構築」の三つの視点から、グローバル化と地域との関係解明を試みる。拠点形成実施にあたっての特徴は以下の五点である。(1)複数の継続的な海外(協力)拠点を形成し、現地調査のみならずワークショップ・シンポジウムに至るまで海外拠点で行う。(2) 海外拠点横断的なワークショップを通して、カンボジアなど各拠点で獲得された知識を真にグローバル(統括的)な知見へと昇華させるとともに、各拠点と拠点本部の二段階での定期的な統合ワークショップを通して、全三群の研究を統合する。(3)シンポジウム・ワークショップなどの成果を大学の国際性を活かし、キリスト教文化圏はもとより全世界に英和の双方で発信する。(4)本拠点をグローバル・スタディーズ研究科へと改組することをすすめる。		
教育実施計画	本拠点で「グローバル・スタディーズ」新科目を設置し、地域固有性を重視した立場からグローバル・スタディーズの批判的再構築を試みる。この過程で、三専攻をグローバル・スタディーズ研究科へと改組することが、大学全体の将来構想の中で検討されている。グローバル・スタディーズ研究科では国際的に通用する人材を育成するため、従来の英語のみによる教育・指導を拡充する。大学院生・ポスドクは、カンボジア・フィリピン・メキシコ・コロンビア・チュニジア・エジプトなどに設けられる海外(協力)拠点で現地調査のみならず研究指導も受け、研究発表まで行う。また本拠点においても、海外(協力)拠点の共同研究員(特に若手研究者)を受け入れ、研修指導にあたりると同時に、大小さまざまな通研究群・通拠点ワークショップと全体シンポジウムを行う。海外拠点としては、アジア人材養成研究センターへと改組・強化される予定のアンコール研修所が既に成果を挙げている。		

